

## 外国語コンテスト「中国語（法・済・営・国）部門」講評

12月5日（木）13時30分からL606教室で開催された「中国語（法・済・営・国）部門」には、計23名の学生が参加しました。昨年より参加者がやや増加し、今年も基礎部門と応用部門に分け、学習歴に応じた課題文を朗読してもらいました。

基礎部門では、留学生が日本でパン屋のアルバイトを通じて学んだパンの焼き方を母国に持ち帰り、パン屋を開きたいという課題文が選ばれました。1年生の参加者は7名で、中国語学習歴わずか8ヶ月とは思えないほどの高いレベルを披露しました。特に「三声+三声」の連続や「ian」「ziji」といった発音の難所も全員が正確に発音しており、基礎をしっかりと積み上げた努力の成果が感じられました。2年生や3年生の朗読を聞いて刺激を受けたという感想も寄せられ、相互に学び合う充実した時間となりました。

応用部門では、「逆転の発想」をテーマにしたユニークな課題文が選ばれました。この課題文では、競馬における「遅い馬が勝つ」というルールを採用し、騎手たちは自分の馬をなるべく先に進めないようにコントロールしているものの、勝負がなかなか決まらない中、観客の「馬を交換する」というアイデアがきっかけで、騎手たちが逆に全力で競争するようになるという内容でした。応用部門には16名が参加し、例年であれば1年生が第3位に入賞することが多かったのですが、今年の応用部門上位3名のパフォーマンスはどれも甲乙つけがたいほどの高レベルで、審査は非常に難航しま

した。慎重な議論を重ねた結果、以下の順位が決定しました。

第1位 倉橋 杏心 国際コミュニケーション学部3年

第2位 曾我 美奈 法学部3年

第3位 神戸 琴美 国際コミュニケーション学部3年

今年も基礎力の向上と挑戦心にあふれた朗読コンテストとなり、多くの学びと感動を共有する場となりました。

鄭 高咏